



駒場松桜会創設百周年を祝う



駒場松桜会会報



理事長 中江千恵

母校創立百周年を迎えた3年前、私たち卒業生は大きな誇りを感じました。こんない学校で教育を受け、偉大な伝統の中に自然に身を置くことができ、感謝の気持ちでいっぱいです。

今年は松桜会（同窓会）の創設百周年、今年こそ私たちのお祝いの年かもしれません。先輩の皆さまは代々仰光寮を守ってください。

私たちも仰光寮への思いは強く、松桜会でお掃除、空気の入れ換え等をして大事に守っています。仰光寮の将来は分かりませんが、どうぞお花見をしながら仰光寮と親しんでください。

松桜会は財団法人でございますので、卒業生、母校の生徒さんたちのお役に立つ会であることは勿論ですが、都民の文化振興等にも寄与しなければなりません。従来の事業の他に一昨年から松桜会講座も始めました。松桜会の皆さまは各界でご活躍の方が多く、その専門知識を活用させていただいています。

松桜会文部は北海道から九州迄16あり、各支部の活動、支部長さんたちの情熱に感謝申し上げております。

百周年をお祝いする楽しい行事をいろいろ計画しました。尊敬する先生とすばらしい友人に出会った学校です。楽しい青春時代と共にした人たち、先輩後輩も交えての松桜会の百年を盛り上げていきたいと願っています。どうぞ松桜会発展の為、多くの学年からのご協力をお願い申し上げます。

校長 鳴海靖郎

大地球儀から現建築山の五大陸モニュメント、そして鳥の歌ブロンズ像

へと時を刻んできた本校の歴史は、巡り来し春に記念すべき節目を迎えつつあります。

同窓会創設百周年、誠におめでとうございます。同窓会の象徴的存在である仰光寮も、時代の断層を乗り越え、静かに百周年を迎えようとしております。ここに至る先達のご苦労と熱鉄の思いに敬意を表さざるを得ません。

また、同窓の皆さまは、国内外を問わず社会のあらゆる分野に功績を残し、且つ活躍されてきました。真にもって頼もしくご同慶の至りであります。

ところで、先に創立百周年を経た本校は、文武両道実践校としての高い評価の内に、21世紀としての確かな歩みを開始しております。数々のご支援に感謝申し上げると共に「第三」から「駒場」へと脈々と継承されてきた本校教育の大河を、グローバル化社会にあっても、一層充実させていくことが肝要であると考えております。

おわりになりますが、駒場松桜会の益々の充実・発展と併せて本校への不易のご支援をお願い申し上げお祝いの辞と致します。



第76号
2005年3月1日発行
財団法人駒場松桜会
〒153-0044 東京都
目黒区大橋2-18-1
都立駒場高校仰光寮
電話03-3466-7579
振替番号
00190-8-28486
E-mail/
komaba999@
komaba.or.jp
ホームページ
<http://www.komaba.or.jp>

お花見とお茶会

駒場松桜会創設百周年記念事業の一つとして、4月2日(土)総会終了後に仰光寮周辺でのお花見と校内でのお茶会を計画しております。

お花見会場の仰光寮は老朽化が著しく、総会や学園祭期間中の見

学以外には、内部の催しは今回が最後になると思われます。ご存分に名残を惜しんで軽食を召し上がるながら春の一時をお楽しみいただければと思つております。

同時に開催するお茶会は、東館和室と総会終了後の会議室で行われます。何もご用意になる必要はありませんので、お茶の心得の有無にかかわらず気軽にご参加になり、同窓会創設百周年をお祝い下さい。

なお平成16年度下期松桜会講座「喫茶去」はお茶席をより楽しんで頂くために計画したものです。講師の江本泰子さん(駒12)をはじめ、母校茶道部OGの方々や在校生、学校の全面的なご協力を得て、今頂くため計画したものです。講

母校茶道部OGの方々や在校生、学校の全面的なご協力を得て、今頂くため計画したものです。講師の江本泰子さん(駒12)をはじめ、母校茶道部OGの方々や在校生、学校の全面的なご協力を得て、今頂くため計画したものです。講

2005年度総会 お花見 お茶会のお知らせ

- 総会 4月2日 午前11時30分 母校会議室(11時受付開始)
- お花見 4月2日 正午～ 仰光寮周辺
- お茶会 4月2日 正午～ 東館和室、本館2階会議室(立札)

- 出席の方には準備の都合上、同封のはがきの項目に○印をつけ、50円切手を貼付の上、3月25日までに到着するよう、ご投函下さい。
- お抹茶のお席は、当日の受付順で時間を決めさせて頂きます。人数の都合で、ご希望に添えない場合がございますので、ご了承下さい。
- 当日、松桜会年会費の納入をお受けしますので、お手元の振替用紙をご持参になって、受付でお支払い下さい。

目次

理事長あいさつ	1
校長あいさつ	1
新入会員より	1
お雑様	2
祝駒場幼稚園創立五十周年	2
前理事長祝辞	2
記念美術展ご案内	2
百周年記念総会ご案内	1
松桜会講座のご案内	1
平成17年度上期	1
学園祭参加報告	2
松桜会コンサート	5
リレーイッセイ③	5
会報に見るあの記事この記事	5
同期会報告・事務局から	5
母校生徒の活躍・掲示板	6
おわりになりますが、駒場松桜会の益々の充実・発展と併せて本校への不易のご支援をお願い申し上げお祝いの辞と致します。	7
6	7
8	8

松桜会に寄せて

前理事長 小杉 明子 (第三33)

駒場松桜会創設百周年を迎え、心からお祝いを申し上げます。

私は昭和7年に憧れの女子名門校東京府立第三高女に入学を許され、高等科を経て昭和14年に卒業致しました。昭和8年には、仰光寮が下賜され大変名誉な事にて、学習時や部活動で拡く使わせて頂いた事は何よりの誇りとなつております。次第に戦争の影が濃くなり、第三高女は率先して兵隊さんへの慰問袋作りや傷痍軍人の白衣縫をして陸軍省にお届けに参りました事も、仰光寮と共に強く残る思い出です。

松桜会には、評議員、理事を経て平成8年に1期3年のお約束で理事長をお引き受けする事になりました。私の仕事はまず母校百周年の諸行事の準備委員会の設立から始まり、会としてのプラン、行事その他諸々の案件を立ち上げました。学校は既に男女共学となつており戸惑うこともございました。

出でます。次第に戦争の影が濃くなり、第三高女は率先して兵隊さんへの慰問袋作りや傷痍軍人の白衣縫をして陸軍省にお届けに参りました事も、仰光寮と共に強く残る思い出です。

松桜会には、評議員、理事を経て平成8年に1期3年のお約束で理事長をお引き受けする事になりました。私の仕事はまず母校百周年の諸行事の準備委員会の設立から始まり、会としてのプラン、行事その他諸々の案件を立ち上げました。学校は既に男女共学となつており戸惑うこともございました。

・コチロン大会

10月末に開催予定です。

毎月第1木曜に駒場幼稚園、第3火曜日に母校生徒ホール(共に14時から)で踊っておりまますのでご参加下さい。

さらに、これから新しい松桜会作りを目指して、この百周年が大きな節目となりますよう切に念じております。

入学してから早くも3年という月日が過ぎようとしています。駒場での高校生活はあつと言う間でわせたが、非常に多くのことを経験でき、大変充実したものでした。

学校行事では、みんなと力を合わせて一つのことを成し遂げる素晴らしさを学びました。特に3年の文化祭でやったクラス劇は困難も多くありました。それでも自分たちの役割を果たし、また協力し合うことで最高のものを作り上げることができました。あの感動は忘れられません。

これらの経験や、部活動で苦しい時も頑張ったこと、そして出会った仲間達と過ごした日々は、何ものにも替え難い宝物です。二度とない高校生活を駒場で送れたことを本当に嬉しく思います。

会 場 目黒区美術館 区民ギャラリー
目黒区目黒2-4-36
☎ 03-3714-1201
会 期 2005年6月15日④から
19日①まで
午前10時から午後6時
(最終日は午後4時まで)

梅垣慶子さん(第三36)が松桜会へお雛様一式を寄付して下さいました。4月2日の総会の日迄東館和室に赤い毛氈の七段飾りで豪華に飾つてありますので、総会当日、又はご連絡下されば月曜日に見学にいらして下さい。

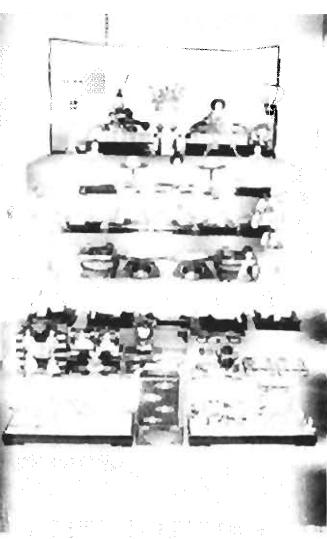
お雛様

梅垣慶子さん(第三36)が松桜会へお雛様一式を寄付して下さいました。4月2日の総会の日迄東館和室に赤い毛氈の七段飾りで豪華に飾つてありますので、総会当日、又はご連絡下されば月曜日に見学にいらして下さい。

駒
57—5
川手 佑介

駒
57—1
桜井 春佳

駒
57—保体
佐藤 浩太



今、3年間の駒場高校を振り返ると、駒場高校の生徒で本当に良かったとつくづく感じています。

保健体育科生としての厳しい上

下関係から始まり、3度の実習、実技発表会、そして各専攻と様々な貴重な体験をしてきました。今で

は1年生であつた自分がとても小さく感じます。怒られてばかりだったはずの自分達が指導する立場に、そして「駒場」という看板を背負える人材へと成長できた事を嬉

しく思っています。怒られてばかりだったはずの自分達が指導する立場に、そして「駒場」という看板を背負える人材へと成長できた事を嬉しく思っています。

もちろんそれが自分達だけの力ではなく、講演会の講師として、部活のO

Bとしてなど私達が学ぶ場を多く与えて下さいました。

卒業後も誇りと先輩方への感謝を持ち、また、卒業生の一員として何か活躍できる機会があるよう頑張つて行きたいと思います。

これからも駒場で学んだ一つ一つを胸に刻み、さらに大きく成長できるよう頑張りたいと思います。

これからも駒場で学んだ一つ一つを胸に刻み、さらに大きく成長できるよう頑張りたいと思います。

記念美術展ご案内

初夏の1日ゆっくりご鑑賞下さい。



平成17年度(上期)松桜会講座のお知らせ

- ◇対象者・駒場松桜会会員・母校教職員・PTA会員
 - ◇申し込み方法・往復はがきで松桜会へ講座名、氏名、卒業回、住所、電話、所属等を記入しお申し込み下さい。
 - ◇受講料・各講座に記載の金額を第1回目出席時にお支払い下さい。
 - ◇会場・駒場高校教室(社会科室・203教室)
- * 講座ごとに別々のはがきでお申し込み下さい。

A講座 「漢詩鑑賞」

遠い昔、私達の祖先は、漢詩文に出会い、訓読して、簡潔でリズミカルな文体を創り出しました。現代の日本語の半分が漢詩文からのものです。今回は、四つのテーマに絞って漢詩を取りあげ、鑑賞し、漢詩の世界に浸り遊んでみたいと思います。

1. 日本と中国、それぞれの古典教育
2. 四季のうた
3. 旅情・別離・望郷のうた
4. 酒と詩人
5. 女性と漢詩

講師 安居 總子(駒4)

東京教育大学文学部漢文専攻卒。中学校国語教師35年。岐阜大学教育学部・大正大学教授。国語教育の中道をめざして現在も活躍中。

受講料2,500円 教材費1,000円
会場 社会科室 45名

講 座

	月	4月	5月	6月	7月	8月	9月																		
	日	16	23	30	7	14	21	28	4	11	18	25	2	9	16	23	30	6	13	20	27	3	10	17	24
A 漢詩鑑賞		13:30 15:00			■				■	■			■												
B 朗読をたのしむ		13:00 15:00							■				■		■								■		
C 歌舞伎の名作に親しもう		13:30 14:50											■		■							■			
D 無礼討ちを考える		10:40 12:00																■	■	■	■				

すべて土曜日

C講座 「歌舞伎の名作に親しもう」

歌舞伎をはじめとする演劇は、生の舞台を見るのがなにより大事です。しかし、歌舞伎の筋立てでは、時にはとでも複雑だったりします。そんなとき、あらすじや人物関係、それに加えて見所や名せりふなどの予備知識を持って観劇に臨めば、より深く、つっこんだ見方ができ、あもしろさが倍増するのではないかでしょうか。名作の台本を読みながら、歌舞伎に親しんでみませんか。初心者でも楽しめることが、請け合いであります。(最終回は観劇予定)

講師 金森 和子(駒18)

大学時代に歌舞伎研究会に属したのが縁で、「季刊歌舞伎」編集部に入り、昭和51年からフリーとなり歌舞伎の普及のために執筆、講演、編集、翻刻に従事し、昨年末まで25年間歌舞伎公演プログラムにあらすじを執筆していた。主な著書「歌舞伎ファンジョン」(H5)「すぐわかる歌舞伎の見どころ」(H16)等。

受講料 2,500円
会場 社会科室 45名

B講座 「朗読をたのしむ」

朗読は誰にでも、一人でもできる自己表現の手段の一つです。が、文章を声に出せば朗読になるというものではありません。聴く人の共感を得るには一寸したコツが要ります。それを一緒に勉強しようと思います。

講師 渾太防 一枝(駒7)

劇団民藝演出家。芝居の演出の傍ら、20年ほど前から朗読の指導・演出を始め、現在、神奈川県下数カ所で朗読グループを指導している。

受講料2,500円

会場 203教室 15名

D講座 「無礼討ちを考える」

江戸時代の武士は、しばしば「サラリーマン武士」「官僚的武士」とイメージされますが、彼らは身分制社会を統治するがゆえの義務も背負っており、現代社会とまったく異なる状況下にあがれています。無礼討ちを通して近世武士の実像に迫りたいと思います。

講師 合口 真子(駒30)

日本近代史専攻。早稲田大学などで教鞭をとるほか、早稲田大学オープンカレッジで「江戸の歴史」「赤穂事件を読む」も担当。第3回日本歴史学会賞受賞。今年、吉川弘文館から研究書を出版する予定。

受講料 2,000円

会場 203教室 45名

学園祭参加報告

第76号

母校創立百周年を記念して開設された講座が軌道に乗り、「学びの場をいつまでも」、この一年間の実績を紹介させていただきました。

平成15年度下期4講座、16年度上期5講座について、講師のプロフィールと作品・著書等の紹介並びにメッセージ、写真による受講風景、講座内容と受講生の感想等をパネルで展示しました。うち製作を伴う2講座では講師、受講生の作品も並べました。

来訪者の中には講師が全員各方面で活躍中の松桜会会員であることに感心し、人材の豊かさに驚いたとの感想を述べてくださる方もありました。また、橋内良枝先生もありました。

松桜会コンサート

例年開かれている松桜会コンサートも、企画がマンネリだと、出演者が高齢化しているとの声があがっていましたが、今年度は、「安藤由布樹の世界」のタイトル通り、駒32の新進作曲家安藤由布樹さんの作品で全曲を構成しました。

安藤由布樹さんは奏楽堂日本歌曲コンクール作曲部門第1位を受賞後、中広い作曲活動を行い、現在コンサートプロデュース「音の絵本」代表音楽監督をしていらっしゃいます。

第1部はソロに門屋留樹さん(駒16)をむかえ、安藤さんの伴奏で、海を背景にした3つの歌と歌曲集、「文明」国と比べ「遅れている」とお二人の軽妙なトークをはさんで、安藤さんの華麗なピアノソロによ

展示の前で講師の金城靖子さんに興味深げに色々質問をする姿も見られました。会場の一隅では、講師の金森和子さんの著書「すぐわかる歌舞伎の見どころ」も販売し興味ある方にわけできました。

最後に次期開講予定の内容を紹介して今後のご支援ご協力をお願ひしました。

中林(駒5)

(音楽)のお孫さんが「守り仮」の展示の前で講師の金城靖子さんに興味深げに色々質問をする姿も見られました。会場の一隅では、講師の金森和子さんの著書「すぐわかる歌舞伎の見どころ」も販売し興味ある方にわけできました。

最後に次期開講予定の内容を紹介して今後のご支援ご協力をお願ひしました。

中林(駒5)



10日(土)オペラシティ・リサイタル

ホテルで、北川暁子さん(駒15)北川靖子さん姉妹のピアノとバイオリンデュオを予定しております。

仰光寮が今でも駒場高校のシンボルの一つとなっている」と感じたひとコマでした。



谷口眞子(駒30)

仰光寮見学会

リレーエッセイ③

歴史の深みにハマっています

日本史研究者

音大を目指してピアノを練習していた私が、日本史を研究するようになったのは、偶然のなせるわざです。高1の時担任の先生から普通の大学を受験するよう熱心にすすめられていましたが、勉強が面白くなつたのは2年生のときでした。現国の授業で中島敦の『山月記』『李陵』を読んでいる頃中国史と漢文を習い、「東洋」に目覚めたのです。

大学の東洋史学科では東南アジアに関心があり、タイ人の家でホームステイもしました。当時はまだ、東南アジア史が学べる大学院はなく、アジア部局を希望して野村総合研究所に入社しますが、配属されたのは証券調査部でした。社会と経済のうねりを実感しつつも自分が研究に向いていると感じ、大学院で選んだ専攻は、高校時代から東洋史と同じく興味を持っていた社会人類学でした。

「文明」国と比べ「遅れている」と価値観を持っていること、単線的

な経済発展論や進歩史観が通用しないことは、アジア諸国を訪れた時に感じていましたが、それを学問的に学んだだけです。さらに日本経済史を研究する過程で、政治的・経済的・社会的諸力が相互に作用して構成する歴史の全体像を深く考察したいと思うようになりました。そこで博士課程から日本史専攻に移り、今に至っています。現代社会が抱える問題を考えにあたり、過去の歴史から学べることはたくさんあります。日本史の懐の深さ、テーマ選択の広さは、考察の視野を広げ本質を見極めるために、資するところ大なるものがあります。現在私は法制史学や社会学など他分野の研究も射程に入れて、江戸時代の研究を行なうとともに、西洋との比較史の可能性も探っています。過去の歴史をどのように見るかは、現代社会をいかに見るか、人をどのように見るかと結びついています。歴史研究は史実を明らかにするだけではなく、自身が無意識に持つてゐる偏見や先入観を絶えず点検し、常に自己を相対化する試みでもあります。最近では、外国人研究者と共に論文を執筆したり、海外の学会で報告したりして、世界史的視野で江戸時代を見通し、日本史を世界に発信することにも力を入れています。

これまで松桜会歴史講座では、第1回「歴史と物語へのいざない」、第2回「武士の日記を読む」を担当しましたが、第3回は「無礼討ちを考える」をテーマに選びました。興味のある方は是非いらして下さい。

会報に見る あの記事この記事



発刊の辞

同窓姉妹の皆様おなつかしう存じます。戦争の為に久しい年月を心に想ひつつもお互に御無沙汰致して仕まひました。漸く私共の気持ちも落ちつきまして此度さやかながら会報出版の緒につきました事御同慶此上も御座いません。

戦後第一回として皆様がきっとお知りになり度い、母校の更正御紹介及旧恩師の御消息をお傳え致し度いと存じます。

同窓会理事長 長倉 邦雄

その中から興味深い記事をいくつかご紹介して半世紀の時代の移り変わりを見てみたいと思います。(旧かなづかいも含め、ほぼ原文のまま再録しました。)

います。

現在母校は、男女共学の問題、通

学区設定の問題、総合制高校確立の問題等從来夢想もしなかった事を着々具体化して行かねばなりません。こうしてすさまじく変形し

て行く母校に対し、同窓生各位がどんな感じを御持ちになるか、私はよくわかります。しかしど

うに形式や内容が変わりましても現在の生徒達は頭のてっぺんから足の爪先まで、先輩各位が打ちたてた傳統の誇りを少しも失つてないません。此の傳統の誇りこそ、古い同窓各位と、現在の生徒、将来此の学校を巣立つて行く同窓生の心と心を結びつけるきづなであると信じています。

学校は戦災にあつてから、色々曲折はありましたが、昭和二十一

年秋現在の校地、目黒区上目黒八丁目元陸軍輜重兵学校跡に引越し敷地約二万坪、校舎約壹千坪を確立し、現在昼夜併せて約千四百名の生徒を収容しています。帝都的一大中心地渋谷から徒歩で約二十分、玉川線大橋駅、井の頭線一高前の中間に位し、便利な点から言つても、環境の点から言つても

同窓会の機関紙を発刊する運びになりました事を心から喜んでいます。色々な困難を克服して着々親善と希望のつながりが同窓生各位の中に具體的な活動のかたちを以て、よみがえつて来つつある事は、学校としても心づよく感じて

理想的な場所に落着いた事は、戦災学校として幸であると思つています。

松桜会の誕生

最近皆様の御手許にとどきます

同窓会の通信に、松桜会という名称が附されて居ますので、御不審に敬慕し、将来更に新日本建設の基盤に貢献されることを心から祈ります。

学校は同窓生各位が過去に於て残された個人的、社会的業績を常に敬慕し、併せて母校の発展に心から念し、併せて母校の発展に心から愛情を傾けて戴き度いと希望して止みません。

日付がはつきり記載されていませんが、昭和24年春の発刊かと思われます。先生方は疎開されたままの方や中には卒業生宅に世話になつている方などもいて、住宅事情の悪さがうかがわれます。

なお、当時は校長長が同窓会の理事長を兼ねておられました。

文化講演会

本年五月より母校PTA主催同窓会共同にて仰光寮に於て講習会を次の様に始め、御近くの方々に喜ばれ日増しに盛んになっております。受験準備の為の英語、数学は夜間、お琴・活花・洋裁・和裁・編物はいづれも午後、詳細は仰光寮迄お問い合わせ下さい。

(第1号 昭和24年春発行)

★この頃同窓会事務局はまだ麻布の仰光寮に置かれていましたが、現行行われている松桜会講座の前身が存在したのですね。この後昭和26年に仰光寮が駒場に移築されるまで学校と同窓会の所在地が異なるという状態が続きました。

この頃同窓会事務局はまだ麻布の仰光寮に置かれていましたが、現行行われている松桜会講座の前身が存在したのですね。この後昭和26年に仰光寮が駒場に移築されるまで学校と同窓会の所在地が異なるという状態が続きました。

明けて一昨年、皆様のご協力によつて仰光寮の移築に依り同窓会員の拠点を得まして日を追つての解決を同窓会のこれからなそうとする仕事の中に織りこんで行き度という動議が出まして理事長先生にも御量りいたしました処早速に御賛同を得ましたので昨秋あたりより寄々会員の方々に呼びかけ相当事数申込は受けでは居りますけれども多數の中より選定せねば評議員及び記念事業実行委員約五十名程御出席の会合の折に御相談し、三光会、三駒会、仰光会、眞玉会、松桜会等かねて同窓生の方より御申し入れの名称を御計り致しました所、駒場松桜会に絶対多数の御賛成がありましたので、一年近く延引して居りました名称を、松桜会と変更致しました。(中略)校歌より生まれましたこの名称を何卒御支持いただきたく御願い致します。

(第6号 昭和26年12月3日発行)

★第三高女時代から引き継いた駒場の校歌は、地名や歌詞に変更はあるものの、友と融合し自己研鑽に努めよという精神はそのままです。

その中で松の緑と桜色が清々しい色彩を放つて気品を醸し出しています。この二文字が第三と駒場を結ぶ同窓会名称として、多数の賛成があつたのは尤もではないでし

ょうか。

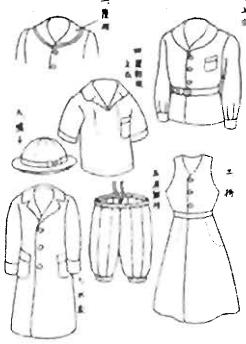
(第7号 昭和27年8月6日発行)

★同窓会に初めての事業部、しかも結婚相談所ということで二重の驚きでした。戦後のこの当時は適齢期の男性が極端に少なかつたことでしょうが、事業として取り組むほど大変な結婚難だったのでしょうか。子どもの結婚には母親の方がより切実に、真剣になるのはいつの時代でも同じようですね。

私と洋装

第三四西 東ヶ崎三寿

日露戦争の真最中「此の異様な服装を許すべきか」と教員会議の問題となつたとか。在学四年間軽々と楽しい生活を送りつつも優雅な長袖袴が羨ましく、只一組の和服を作つて貰つた時の嬉しさ。さて女高師入学となると左様な服装の者は教育者たるに相応しくないと流石主義に生きた先覚者の母も



★東ヶ崎さんは戦後の会報の寄稿者の
中では一番古い卒業生です。第4回
生は明治41年卒業なので、まさに
「明治の女学生」。まだまだ洋装に抵
抗感があつたのですね。ハイカラな
女学生の姿が目に浮かびます。創立
当時の生徒の服装は、海老奈が紺の
袴に靴のスタイル。大正期には綿服
という指定があつたようですが、ま
だまだ洋装は少なく、今のセーラー
服が制服とされたのは昭和2年のこ
とでした。また戦時中はセーラー服
の上着にモンペということもあります
した。

★東ヶ崎さんは戦後の会報の寄稿者の
中では一番若い卒業生です。第4回
生は明治41年卒業なので、まさに
「明治の女学生」。まだまだ洋装に抵抗感があつたのですね。ハイカラな
女学生の姿が目に浮かびます。創立
当初の生徒の服装は、海老茶か紺の
袴に靴のスタイル。大正期には綿服
といつ指定があったようですが、まだ
洋装は少なく、今のセーラー
服が制服とされたのは昭和2年のこ
とでした。また戦時中はセーラー服
の上着にエンペルということもありま
した。

第三五東

第三五東 吉田

第三回 第二回
吉田 久く
その後は永い間御無沙汰をいたし申訳もございません。遠く海外に居り永い戦争で全く交通を絶たれて居りましたので、遂失礼申上げて居りました。最近同窓会便り第二号を頂きましたので先生方や皆様の御様子も判りおなつかしく拝読させて頂きました。

当ノアリストと申す所はサンノウロ市から数百糸離れた田舎で、ラジル拓殖会社經營の移住地で一時は千数百家族の日本人が集り、主に農業でございますが私共では

農具製作修繕を致す鍛工所を致して
おり約十八年ここに住んで居ります。
まいりました時は主人と只二人の娘を連れてましたのが男女四人の子供が殖え孫も十人おり、
只今十五人家内で仲々賑やかな多忙な日々を送っております。

当地は一年の中四月から八月の間は涼しく、その他は夏で気候は誠によろしうございます。農産物

同窓会費について

同窓会員の皆様!! 御

50年以上も前にこんな海外、だよりが
寄せられていました。

〔第3号 昭和25年8月1日発行〕

先生方や皆様の御健康と同窓会の御発展を祈りつつはるか海外より
さようなら。

も豊富で果物等年中なつておりま
す。戦後の日本の様子を新聞等で
拝見して一日も早く移民に来られ
たらと願つておりますが、色々の
事情でまだ実現されません。ただ
先日等も水泳選手が来伯され、日
伯親善の効果をあげられ在伯同胞
はどんなに喜んだかわかりません。

★ いつの時代の同窓会も、会員の皆様が「会費を納めていたばかり」とは至難のわざのようです。まして眞面目な値の激変したこの時代の「苦労はそぞらと推察いたします。

(第三12西 中村静子夫君)

★女子高の同窓会報に寄稿する男性は、教職員に限りれる中で、唯一の部外者(?)の文を発見しました

そこで同窓生としての黙認をうながす者的第一号は、昭和30年3月16日発行の第9回に新井貢の辞を書いてある。駒ヶ回生の張富士夫氏（現トヨタ自動車社長）です。

新入会員となるにあたつて

張富士夫

た積もりなのにもう卒業…。自分の高校生活をふり返ってみると、あれやこれやの思い出はあれども、必ず第一に三年間の短かさと言ふものが痛切に感じられます。これら

か：？（中略）
な風に三年間をかけ足の様な状態で過ごし、卒業後更に上級学校または職場・家庭へと夫々自分の道を歩んでゆく我々にとつて、一体駒場を思い出すことはあるのだろう

こんな意味で我々が同窓会を持つことは、非常に幸運なことであります。卒業後も我々一人一人が会員となって、実際に駒場のために働くことが出来ると言うことは、何の上なく愉快なことです。（中略）新入会員となるにあたつては、且つ建設的な態度でのぞむと、な、且つ建設的な態度でのぞむと、言うことを約束します。

